

耶麻農高 農場便り

あ・ぐ・り

Agriculture～農業～

第33号

平成25年12月20日発行

発行責任者
農場長 星久一郎

畜産部門

現在の飼育状況は、繁殖牛2頭・子牛1頭、肥育牛11頭の黒毛和牛で学習をしています。

今年度は、2頭出荷し、肉質の格付けは肥育牛1頭A4と継産牛1頭A3と共に高値が付き、来年1月にも出荷予定の肥育牛1頭にも高価格が期待されます。子牛の高騰により、1カ月遅れの12月に新たに4頭導入しました。2年後の出荷に向けて計画的に飼育しています。また、繁殖牛の方は、7月下旬に1頭生まれ順調に育っています。

プロジェクト学習は、来年1月末に行われる校内研究発表会に向けてまとめの段階に入っています。良い発表ができるよう指導していきたいと考えています。



農場長より

今年は公開文化祭が行われました。生徒達にもいろいろな役割が分担され、通常の学校生活では見られない頑張りが多く見られました。産業技術科も恒例の農産物販売においては、販売開始と同時に多くのお客様に購入していただき、予定していたものはほぼ完売することができました、心より御礼申し上げます。また、学習発表のパネル展や学校産牛の串焼き販売、そば打ち初段位を目指す生徒のそば打ち披露などの催しでは、お客様からたくさん質問をいただくなどして、盛り上がった文化祭であったと思います。



草花部門

早いもので今年もう終わろうとしています。4月からマリーゴールド・サルビア・ペゴニア・カンナ・キク・シクラメン等の草花の栽培・販売をしてきました。皆様の温かいご支援により、円滑に進めていくことができたことを感謝申し上げます。

また、喜多方市との連携事業では、市役所・喜多方駅にオブジェを設置しました。楽しんでいただけましたでしょうか。感想等をいただければ幸いです。次年度も実施しますので期待してください。これからも地域に愛される耶麻農業高校草花部門を目指していきたいと思ひます。お気軽に来校し、楽しんでください。ご愛顧のほどよろしくお祈りします。

【今後楽しんでいただけそうな草花】 プリムラ・サイネリア



作物部門

水稻においては、夏に雨が続きたりした時期もありましたが、その後の天候も持ち直し、登熟も良好となりました。昨年度と比較すると10アール当たり約50kg増収できました。そばの収量においても、草地とそば畑の転換を実施した結果、収量が倍増となりました。

今年は福島復興福島次世代ファーマーズマーケットが毎日新聞・住友化学の共催で実施され、県内から6校の農業高校が参加しました。1日70万人が乗降するといわれる渋谷駅に隣接する、渋谷ヒラリエ店頭での販売活動が行われました。本校は精米コシヒカリ・天のつぶ、そば粉会津のかおり、ダイコンを販売しました。



野菜部門

今年も野菜苗を始め、耶麻農高の農産物をご購入いただきありがとうございました。本年は、例年にない夏の暑さと乾燥した日が続く、圃場にアリジゴクの巣ができるほどの水不足に悩まされました。その反動からか、秋口からは冷たい雨が続きようになり、白菜・ダイコン・ネギなどが少々遅れながらもしっかりと生育し、文化祭をはじめ、山都町・喜多方市内で販売することができました。また今年も、東京の東大和市と山都町の交流事業で耶麻農のネギを東京に出荷したところ、すぐ完売するほど好評でした。これからも皆様のご期待に応えるためにも安全で美味しい野菜を、生徒と共に生産・販売しておりますので、是非お買い求めいただけますようお願いいたします。



農業クラブより

今年の農業クラブ活動の概要を紹介します。

各種大会に学校代表として多くの生徒が出場し、農業鑑定競技出場の3年1組市村祐也君、2年1組中川諒久君、1年1組遠藤裕太君、家畜審査競技出場2年1組井上竜哉君が優秀賞を獲得しました。惜しくも入賞できなかった部門はありましたが、来年は是非、出場者全員が入賞できることを願っています。研修会には、福島県夏期研修会に2名、東北夏季研修会に1名参加しました。参加した生徒達は、参加校の活動状況を知り、かなり刺激を受けて来たようです。このことを来年の活動に活かしてほしいと思ひます。今年の農業クラブ活動は、校内研究発表大会を残すのみとなりました。ここからは新役員でさらに活動を盛り上げようと努力しています。

